

# Eight Olympians Project Vol.8

[エイト・オリンピック・プロジェクト]

## TOKYO2020へ、 そしてその先に

Presented by 盛岡広域スポーツコミッション  
[盛岡市 八幡平市 滝沢市 雫石町 葛巻町 岩手町 紫波町 矢巾町]

（スポーツクライミング競技で、壁に設置するホールドの形や位置を決め、ルート（課題）を設定するのがルートセッターだ。選手は試合前の限られた時間でルートのオブザベーション（下見）を行い、最適なルートを探し出して壁に挑む。この6月に盛岡で開催された「スポーツクライミング第1回コンバインドジャパンカップ盛岡2018」にルートセッターの一人として名を連ねたのが盛岡市出身の藤原佑樹さん。岩手県スポーツクライミング界のキーパーソンでもある藤原さんに、スポーツクライミングの魅力やTOKYO 2020への思いを語ってもらった。

### 選手としての栄光と挫折

高校時代に友人の勧めでスポーツクライミングに出会った藤原さんは、選手として素晴らしい実績を持った人物だ。盛岡南高校2年の2008年大分国体で、先輩と組んでリード3位、ボルダリング4位入賞。さらに高校最後となる翌2009年の新潟

国体では、同学年の選手と組み、見事リード競技優勝の栄冠を勝ち取った。

当時の日本クライミング界の第一人者は、日本選手権3連覇を誇る松島峻人さん。藤原さんは、憧れの松島さんが所属するジムでさらに腕を磨くために東京の大学に進学するが、学業との両立は難しいものがあつたという。

日中の練習を中心とする松島さんとは大学の講義の関係で練習時間が合わず、練習相手や指導者のいない孤独な戦いを強いられるが、大学3年の頃にはジャパンカップや日本選手権などの大会で実績を上げ、徐々に世界への視界が開け始めた。

だが、藤原さんはワールドカップ出場権の懸かった大切な試合で痛恨のミスを犯す。「僕は緊張するタイプなんです。あと一息で、完登（完全踏破）」という場面で、目の前のホールドに気付かず、まさかの落下。しばらくは頭の中が真っ白でした」

スポーツ選手には必ずと言っていいほど「あの時の、あの試合」というターニングポイントがある。藤原さんが描いてきた世界を目指す上昇曲線がこのとき途絶えてしまう。

# 見る者を感動させるクライミングは、 ルートセッターと選手の 絶妙な組合せによって生まれる

### 成長への道しるべとなった いわて国体

藤原さんは選手生活を続ける一方で、ルートセッターの仕事に興味を持つようになった。

「ジムのアルバイトでルートセッターをやるようになり、壁に挑戦する人たちの創造力や隠れた能力を引き出す楽しさ、奥の深さに魅力を感じるようになりました」

そして、大学卒業を機に「選手を続けながら、日本一のルートセッターを目指す」道を選ぶ。

夢を追う彼を支えてくれたのは、大学時代に知り合った妻の夢奈（ゆめな）さん。

「決して安定した生活ではありませんが、僕が選んだ生き方を無条件で応援してくれています。ありがたいですよ」と笑う。

ルートセッターの仕事は、想像以上に体力の消耗が激しく、また、スキルが上がれば上がるほど仕事は忙しくなっていく。まさに選手としてのトレーニングを積み重ねてやっていると限界が来る。こうした中で、藤原さんは2016年、希望郷いわて国体の年を迎える。

東京在住の藤原さんは、ふるさと選手として出場し、昆虫修太選手（岩手県スポーツ振興事業団）と組んで第6位に入賞。リード競技少年男子の優勝に隠れて目立たなかったものの、激戦の成年男子の部の国体入賞は岩手県史上初の快挙だった。

「プレッシャーを感じました

## スポーツクライミング・ルートセッター 藤原佑樹さん(27歳)



### TOKYO2020に向けて 注目を集める 伊藤ふたば選手への 期待と課題を聞いてみた

「伊藤ふたばさんのことは、小さいときからよく知っています。彼女はスピード、リード、ボルダリングの3種類のバランスが取れた才能豊かな選手。プレッシャーを楽しめるほどメンタルも強い。日本の女子は野口啓代さん、野中生萌さんなど有力な選手がひしめき、若手も台頭してきているので出場権を獲得することは決して簡単ではありませんが、チャンスは十分あります。ふたばさんの欠点は、頑張り過ぎるところかなあ。たとえばホールドをつかむ力が強いので、無理をしても耐えられてしまう。両刃の剣ですね。まだまだ伸びしろがあるんだから、焦らず、ケガに十分気をつけて、オリンピック出場、そして頂点を目指してほしいですね。僕も彼女とは別のルートからTOKYO2020、そしてその先を目指していきます」

「セッターはできるだけ目立たないようにしながら、才能・実力を備えた選手の魅力を引き出す」これが、藤原さんのポリシーだ。

が、岩手県山岳協会のご配慮で、何度も盛岡での強化合宿に参加させていただき本番に臨むことができました。緊張しながらも自分の100%の力を出すことができましたのは、地元の方々の大声援のおかげです」

希望郷いわて国体でかつてない達成感を味わった藤原さんは選手生活に区切りをつけ、軸足を完全にルートセッターに移すことを決意する。

### ルートセッターの理想像とは

スポーツクライミング3種目のうちルートセッターのスキルが問われるのは、リードとボルダリングだ。中でもボルダリングは、より選手の想像力が問われる種目であり、ルート設定が勝負の行方に大きな影響を与えることになる。

藤原さんにルートセッターとしての理想像を聞くと意外な答えが返ってきた。

「特徴を出さないことが、一流セッターの条件だと僕は思っています。選手から癖を読まれないこと。一見簡単そうに見えるけれど、登り始めて気付く奥の深さ。そう

「現段階では自分がメインのセッターになる可能性は低いかもしれませんが、何らかの形で関わっていきけるよう頑張ります。それが、その先の可能性を広げてくれることになると思うし、僕を応援し続けてくれる妻やふるさと岩手への恩返しだと思っています」



盛岡広域スポーツコミッション  
の情報はこちらから